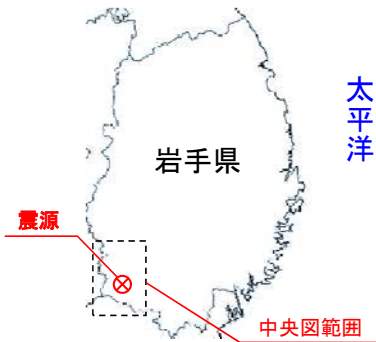


■ 概要

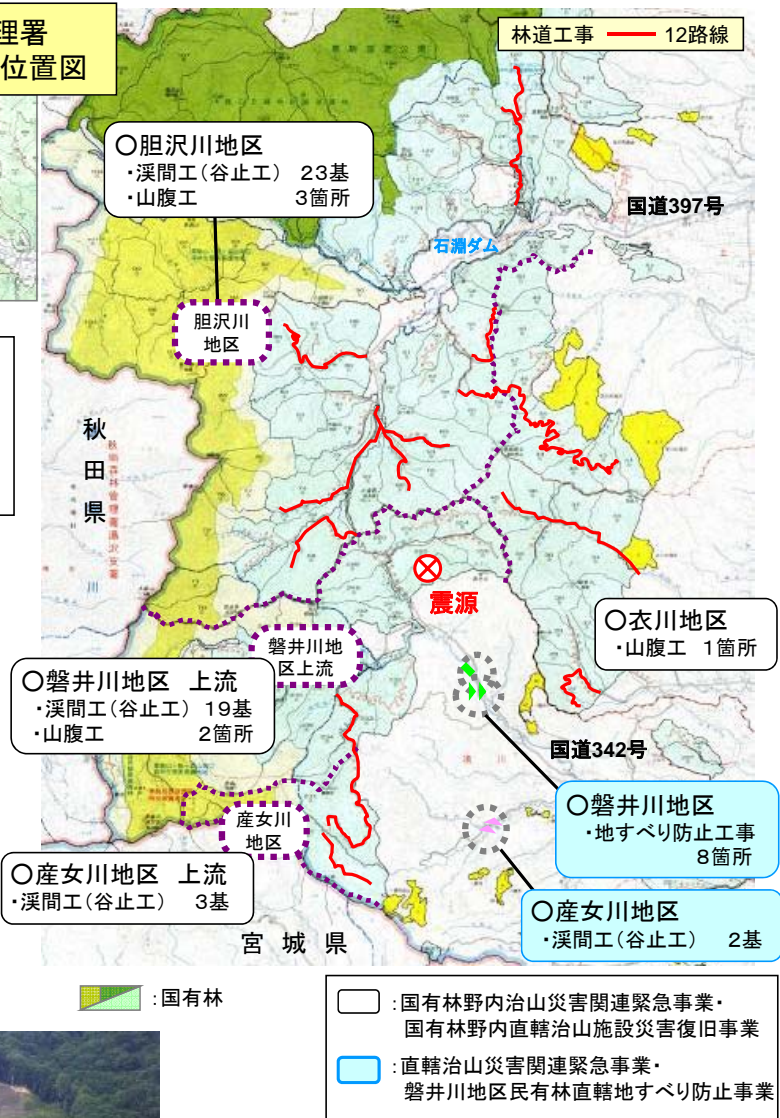
平成20年岩手・宮城内陸地震による被災箇所のうち、平成23年度末までに、国有林治山事業で溪間工45基、山腹工6箇所、民有林直轄地すべり防止事業で溪間工8基、山腹工6箇所、林道災害復旧事業で12路線を整備しました。



岩手南部森林管理署 主要災害復旧箇所 位置図



岩手・宮城内陸地震の記録
2008年6月14日 午前8時43分頃発生
地震の規模 M7.2
最大震度 6強(宮城県栗原市、岩手県奥州市)
震源地 岩手県内陸南部
地震の深さ 約8km
山腹崩壊箇所 1,260箇所
(岩手県内、H20東北森林管理局調べ)



○磐井川地区 上流
・溪間工(谷止工) 19基
・山腹工 2箇所

○産女川地区 上流
・溪間工(谷止工) 3基

○胆沢川地区
・溪間工(谷止工) 23基
・山腹工 3箇所

○衣川地区
・山腹工 1箇所

○磐井川地区
・地すべり防止工事 8箇所

○産女川地区
・溪間工(谷止工) 2基

被災時の状況



復旧状況



○磐井川地区(市野々原)

地震によって市野々原地区では、磐井川の右岸で大規模な地すべり(約20ha,移動土砂360万m³)が発生し、磐井川を150mに渡って塞ぎました。地すべり土塊は対岸にぶつかって止まりましたが、地すべり地内には大量の不安定土砂や倒木等が発生しました。上流側に形成された土砂ダムが決壊するとこれらの土砂が土石流となって流下し、下流域に甚大な被害を及ぼす危険がありました。

対策工として、地すべり地内の不安定土砂を取り除き、斜面下部で押さえ盛土とし、地すべりを安定化させるとともに森林に復旧させるために緑化を行いました。

岩手・宮城内陸地震3周年 市野々原復旧記念植樹の様子



小学生による植樹の様子



市野々原地区住民による植樹の様子



植樹記念標柱とともに

市野々原地区の災害復旧地において、地震から3年となった平成23年6月14日に地元小学校、地域住民および多くの一関市民にご参加いただき植樹祭を行いました。



平成23年度 工事完了箇所

平成23年度は、国有林治山事業で2件、民有林直轄地すべり防止事業で2件の工事を実施しました。
 そのうち、2箇所について、平成24年度に、真湯治山工事、ニゴリ沢第一工区として、引き続き工事を行ないました。

平成23年度工事完了箇所



産女川【溪間工(谷止工)】



ニゴリ沢第二工区【地すべり防止工事】

平成24年度 工事完了箇所

平成24年度は、国有林治山事業で1件、民有林直轄地すべり防止事業で2件の工事を実施しました。(①、②、③)

① 真湯(真湯キャンプ場)【山腹工】 国有林治山事業

地震によって崩壊した斜面の復旧工事を行なっています。斜面の下部にある国道や真湯キャンプ場を今後の崩壊や落石等から保全するために鋭意実行しています。
 平成23年度までに、斜面の上部において、落石等の危険のある土石を除去し、安定した斜面とし、緑化を図りました。本年度も引き続き、斜面の安定を図り、緑化工を完了しました。



平成24年11月5日撮影

② ニゴリ沢第一工区【地すべり防止工事】 民有林直轄地すべり防止事業

地震や降雨、融雪等によって、斜面全体が地すべりを起こす危険性がある箇所を安定させる工事を行なっています。
 地すべりの上部の土砂を取り除く排土工と、斜面下部で地すべりの動きを抑える押さえ盛土工を組み合わせています。また、地すべりによって土砂が流出した溪流の対策や、斜面の緑化などを完了しました。



平成24年12月3日撮影

③ ニゴリ沢第二工区【地すべり防止工事】 民有林直轄地すべり防止事業

地震や降雨、融雪等によって、斜面全体が地すべりを起こす危険性がある箇所を安定させる工事を行なっています。
 地すべりの上部の土砂を取り除く排土工を行い、斜面の安定を図るとともに森林に復旧させる緑化工などを完了しました。



平成24年12月4日撮影